

【取り組みのねらい】

教員も生徒も緊張でがちがちの新年度。新しい環境や組織、今までにない人間関係という未知の世界への突入である。しかしそれはまた、ワクワクすると同時に、心もと無さを乗り越えるべき大きな試練の時でもあるだろう。特に新しい学校・新しいクラスに、初めて顔をそろえた時の生徒は相当に緊張し、ピリピリしているはずだ。学級担任は如何に早くこの緊張状態を緩和させ、よりスムーズな学級経営をスタートさせるかに心を砕くにちがいない。

そこで今回はアイスブレイキング（初対面の際の、コチコチに固まった緊張状態を解冻するという意味）の一助としての、自己紹介新聞&名刺交換を提唱しよう。

【具体的な進め方】

まず、図③のような書式で、生徒に10枚程度の名刺を作らせる。HRNO・氏名・振り仮名を基本書式にして、その他、ニックネームや部活などの一言情報を書かせよう。なるべく、初対面同士の会話が弾むような内容に工夫させることが肝要だ。また、写真シールやイラストでの視覚的インフォメーションも忘れずに。

次に名刺交換。準備したすべての名刺を交換しなくてもよいが、可能な限り多くの人と触れ合えるよう適宜時間を設定する。その際、教員は名刺を受け渡しするときのマナーをキチンと教授すること。昨今は教員でも名刺を使用する機会が増えてきたので、全く知らないという教員はいないはずだ。さらにこれらの指導は、将来的に取り入れられるであろう、キャリア教育の第一歩と認識されたい。今後、高校生も自分の名刺を持つようになり、学校外の初対面の相手とは、名刺交換をする状況になると予想している。ならば当初は、クラスメイトで予行演習をし、重要性を認識させる機会を設定しておくべきだ。

閑話休題。

アイスブレイキングの第一歩は、発声から始まる。とにかく、会話しなければならない環境を創り出してあげよう。このときは図②のごとく、なるべく遠くの席の、つまり出席番号の離れた相手とやり取りできるようにセッティングすること。近い席の場合はほったらかしておいても、生徒は自然に会話するようになる。

家での宿題として、図①の書式で自己紹介新聞を作成させる。名刺の一言情報をさらに詳細に、発展的に書かせよう。写真横の欄、目標や将来の抱負の部分は漠然としたものでも構わないので、必ず記述させるようにしたい。夢や希望は大言壮語してこそ、実現する力が湧くこともある。年度当初の緊張感をモチベーションに転化する、良いきっかけになるだろう。

出来上がった各自の新聞作品は掲示し、自分の新聞の下に友人と交換した名刺を貼り付けていこう。全ての名刺を時間内に配布する必要はないと前述したが、すぐに近い席の仲間内で交換し、自ら貼っていくようになる。すると学年スタート時の人間関係も一目瞭然となり、面談の資料としても有効だ。GW明け、最初の席替えまでは貼っておいてよい。

さて、年度当初の円転自在たるクラス経営の始まりを、NIEの第一歩と併せて実施し、教員自身もおのれの抱負を新聞というカタチを借りて表現してみたらいかがだろうか。多くの人と名刺交換し、アイスブレイキングして人の輪を広げよう。

